まつ　もと　じゅん
中区・磯子区・金沢区
# 松本純 まちかど政治瓦版

令和５年９月１日号
発行
自民党
神奈川1区支部
発行責任者
平木　茂
9月号
2023年
No.246

松本純ホームページ▶https://jun.or.jp/　　ご意見箱▶opinionbox@jun.or.jp

# 「こども」「子育て」「働く人」を守ります。

## 「街づくり」に笑顔を！　松本純の政治の原点は、ふるさと「野毛」にあり

**「いのちを守る」「国家を守る」に続き、今月は「生活を守る」について、松本純の政治姿勢をお伝えします。**

**松本の政治活動の原点は40年ほど前に遡ります。**当時、地元・野毛の町内会役員をしていた時、「東急東横線横浜～桜木町駅間廃止廃線問題」が起こりました。横浜市は、桜木町駅前に広がる臨海部を埋め立て、みなとみらい21という新都心を建設、大規模な都市再開発計画へと動き出していました。その一環として突如、新聞発表されたのが「東横線桜木町駅の廃止」計画だったのです。

「事業承継に関する税制の抜本拡充を求める提言」を行う松本純。麻生太郎財務大臣（当時）に申入れ（2017年11月）

**東横線「桜木町」駅の廃止は、その駅前に広がる飲食店街・野毛にとって、客足を奪われ、商売が立ち行かなくなる最大の死活問題です。**松本は地元の人たちと共に危機感をもってこの計画に対し声をあげ始めたことが、松本純が政治家を志すきっかけとなったのです。

**それまで、松本の人生と生活を支えてきたのは「松本薬局」という小さな個人商店です。**街は「箱」と言われるコンクリートのビルだけでできているわけではありません。街にはたくさんの商店が必要で、そこで働く人々の地道な営みがあってこそ成り立つものです。

**松本の選挙区である神奈川一区には、古くから「横浜」の代名詞となってきた歴史ある繁華街がいくつもあります。**小さな路地のそこここにさえ、人々に親しまれ、愛されてきた数多くの個性ある個人商店や中小企業が存在感を放ち、その「看板」は町の魅力にさえなってきました。しかし、経営者の立場に立てば、経営を安定させ、継続させていくには、いくつもの超えなければならない課題が発生するものです。街を守り、事業者たちの生活を守るためには、中小・小規模事業者の「後継者問題」と「事業の継続」の法的整備が急務と、松本は考えました。

**これまでも松本は、多くの地元の方々からの相談と陳情を受けて、「中小・小規模事業者の円滑な世代交代を後押しする議員連盟」を設立、その会長として「雇用の維持を前提として、贈与税・相続税の負担なく親族や親族以外の第三者へ事業の承継ができる制度」を構築しました。**従来からあった事業承継を「使える制度」に変更したのです。そして、コロナにより事業環境が大きく変わり、相談件数も減少していましたが、松本はこれを再起動させ、さらに中小・小規模事業者が利用しやすい制度へと改善、整備する必要があると考えています。

**街を守り、活性化させるには、安心してそこに集う人々が必要です。**政府自民党は「こども家庭庁」を設立し、次のサポートを始めます。▷大人になるまで切れ目なく行われるこどもの健やかな成長のためのサポート（居場所づくり、いじめ対策など）▷子育てに伴う喜びを実感できる社会の実現のためのサポート（働きながら子育てしやすい環境づくり、相談窓口の設置など）。また、これらと一体的に行われる次の施策も始めます。▷教育施策〈国民全体の教育の振興など〉▷雇用施策〈雇用環境の整備、若者の社会参画支援、就労支援など〉▷医療施策〈小児医療を含む医療の確保・提供など〉。

**政府として、こどもをサポートし、同時に子育て世代をサポートする。そして働く人たちもサポートする、そこには笑顔が必要です。**「東横線桜木町駅廃止」問題以来、野毛がスタートさせた『野毛大道芸』は、野毛を笑顔溢れる賑わいのある町へと変化させました。それこそが、松本純が目指してきた究極のまちづくりなのです。

問合せ●〒231-0064 横浜市中区野毛町2-65　電話 045-241-7800 FAX 045-253-0585

まつ　もと　じゅん
# 松本純 まちかど政治瓦版 中区・磯子区・金沢区

問合せ●〒231-0064　横浜市中区野毛町2-65　電話045-241-7800 FAX045-253-0585

2003年6月16日創刊
発行　自由民主党
神奈川1区支部
発行責任者 平木 茂

9月号
2023年 No.246

## 松本純の活動記録

【2023年8月】

2日●厳島神社例大祭
4日●恵仁会松島病院百周年記念事業・新病院開院祝賀会
●赤井町内会盆踊り
5日●山下町夏祭り(盆踊り)
6日●第44回国際親善盆踊り大会
9日●大叔父の冥福を祈る／靖国神社
11日●丸山第二町内会盆踊り
12日●根岸八幡神社例大祭式典
●第3回みんなで歌い踊るお盆
●根岸町自治会納涼まつり
●中原熊野神社祭礼中原自治会盆踊り
●上野町3.4丁目妙香寺台町内会盆踊り
19日●坂下町内会模擬店・盆踊り
●磯子駅前地区合同盆踊大会

**8/1 金沢区食品衛生協会食中毒予防キャンペーン**●毎年行われる金沢区食品衛生協会のキャンペーン活動。田邊好光会長のご指導のもと金沢区内食中毒予防を元気に訴えましょうと松本純よりアピールがありました。

**8/6 第458回本牧神社「お馬流し」お馬送り式**●450年を超える県指定無形民俗文化財。茅で作った頭は馬、胴は亀を模した「お馬さま」に災いを託し大海原遥かに祓いやる、海の町本牧に相応しい祭礼行事です。

**8/6 能見台駅前七夕祭り・打ち水セレモニー**●コロナの影響で４年ぶりの開催に松本純が参加。遠藤尚男商店会会長のご挨拶の後、打ち水セレモニーとなり、参加者の皆さんは七夕祭りを楽しんでいました。

**8/12 第46回洋光台一街区ふるさと祭り**●集会所周辺の会場ではかき氷、焼きそばなどが各ブースで売られ多くの家族づれで賑わっていました。松本純は激励訪問し、三上勇夫会長にご挨拶しました。

**8/13 第6地区祭礼神輿連合渡御**●祭礼神輿連合渡御が山元町のメイン通りを巡行。来賓席には松本純らが招かれ山車、子供神輿、大人神輿などが通過するごとに地域の皆様と一緒に手拍子を合せ激励しました。

**8/15 峰白山神社宵宮**●峰町内会の役員さんや婦人部の皆さんのご活躍により会場は大盛況でした。激励のご挨拶にお邪魔した松本純は、出来立ての美味しいたこ焼きをご馳走になりました。

**8/17 孫文先生碑前祭**●近代中国建設の父・孫文先生は袁世凱に中国を追われ大正２年８月17日小舟で富岡海岸に上陸しました。県日華親善協会は隔年で富岡慶珊寺を訪問、孫文先生の碑前祭を開催しています。

**8/20 子神社例大祭神輿渡御**●神事の最後に境内に集まった全員が二礼二拍手一礼での拝礼の後、赤英町内会・森下茂会長より「怪我や暑さに気をつけ、伝統を伝えていくのが我々の役目」との挨拶がなされました。

永田町日記

## ヨコハマを「オシャレな観光都市」にします

### 公益財団法人・横浜観光コンベンション・ビューロー理事長　岡田伸浩 さん（横浜岡田屋社長）に聞く

**私、松本純が横浜青年会議所に入会したのは1985年、35歳でした。その時、横浜市は大変革期の真っ只中でした。**４年後の1989年には市制100周年・横浜港開港130周年を祝う一大イベント「横浜博覧会」の開催を控えていました。会場となる「みなとみらい21地区」はまだ埋め立て工事を終えたばかりでしたが、市は、この地を拠点に国際会議や世界規模の見本市等を誘致する「コンベンションシティ構想」を強力に推し進めようとしていたのです。

**横浜青年会議所でも、そんな構想を後押しするように、当時の岡田伸浩氏が、壮大な実験とも言える計画にチャレンジしていました。**内外から16,500人を招き、４日間にわたる「国際青年会議所アジア太平洋会議」の横浜開催を1989年に計画していたのです。岡田氏は振り返ります。「当時、横浜市内には新横浜も含めホテルが3,000室しかなく、どうやって16,500人を泊めるのかが最大の悩みでした」。「また1万人を超える大会式典が行える会場もなく途方にくれました。偶然、新横浜に「横浜アリーナ」が誕生したばかりで、そこがギリギリ使えたのです」。まさに横浜の転換期でした。私自身も岡田氏と共に夢中になって取り組んだことが忘れられません。

**あれから30数年、岡田氏は、今年、新たに公益財団法人・横浜観光コンベンション・ビューロー新理事長に就任しました。**観光庁が提唱する「観光地域づくり法人」が認可され、国を挙げて観光まちづくりの推進を図るタイミングでした。観光都市として横浜が目指す「らしさ」を伺いました。「その昔、横浜に来れば異国文化に触れられました。それを僕なりに表現すると『オシャレ』。国際的にもオシャレといわれる仕掛けをどこまでやっていけるかです」。岡田新理事長の下、観光都市・横浜に更に磨きがかかることを期待せずにはいられません。（純）